

郡山税務署長賞

藤井 妃さん (小野中学校3年)



「社会保障と消費税について」

ここ数年、少子高齢社会という言葉が頻りに耳にするようになった。自分では、なかなかそれが実感できないが、学校の先生方から「先生が高校生の時は、十クラスくらいあった。」というような話を聞くと、子供の数が減ってきていることが、少し理解できたように思えた。また、最近では介護の仕方の話もよく耳にする。それだけ、介護を必要としている老人が多いということだと思う。私も何十年後には、介護を受け、年金で生活するようになるかもしれない。介護が必要な老人になった時でも、豊かに生活していくためには、どうしたら良いのだろうか。私は、社会保障・社会福祉の充実が大きな役割を果たすと思う。それらを充実させるには、国や地方公共団体の連携が、特に必要だと思う。また、それには大きな費用がかかる。もちろんそれには、税金が使われる。それでは、少子高齢社会をむかえ、税金負担者が少なくなる現状で、どうやってたら多くの税金を集めることができるのだろうか。

そこで私は、消費税に注目してみた。

消費税は私たちが何か買い物をしたときに、一緒に払っているものだ。いや、払っているのではなく、実際は税金を納めているのである。つまり、私たち中学生でも、買い物をする小学生や幼児でも、税金を納めていることになる。よく考えると、私たち中学生でも国の財源を支えることができるのではないかと考えたのだ。確かに「できる」といっても、安く商品を手に入れたい。できれば、消費税の分がなければ良い。」と思うことはある。しかし、より良い生活環境作りや、社会保障のことを考えると、国民一人一人が少しずつでも、税を負担しなければならぬと思う。そういった観点から見れば、消費税を納めることで私たちも、少しは国の財政を支えているのだと思った。

消費税は、現在五パーセントに設定されている。税率を引き上げる話を何度かニュースで聞いたことがある。しかし、あまり上げられると、欲しい物がなかなか買えなくなってしまうため、正直厳しいのだが、これからの社会をより良いものにするため、より安心して生活が営めるようにするためには、必要なことかもしれない。消費税にとどまらず、その他の税金の種類や、どのように税金が使われているのかなど、もっと税金のことを知る必要があると思う。国民一人一人が税金についても関心を持てば、いろいろな税金の利用法が見つかるのではないかと思う。もちろん私も、これから税金について、より関心をもつて接したいと思う。

郡山地区納税貯蓄組合連合会長賞

會田 ほのかさん (小野中学校3年)



「私の税への第一歩」

私は、今まで税について考えたこともなく、ましてや私の持つ税の知識など、まったくといっていいほどありませんでした。税金の種類なんて、学校で先生に聞かれても分かるはずもなく唯一こたえられたのは「消費税」でした。しかし、「消費税」とは何か、と聞かれると言葉に詰まってしまう。

私は、なぜ「消費税」について何もこたえられなかったのかを考えました。今までの自分をふりかえてみると、何か物を買うとき「消費税」など気にもせず、ただレジの人に言われた金額を払っていただけでした。

「消費税」とは、お店で商品を買ったり、いろいろなサービスの提供を受けたときに負担するお金だということを知り、学校の授業でならいました。それと同時に「消費税」だけではなく、酒税や自動車重量税など私の知らない税が身の回りであることを知りました。そして、その多くの税は私達の生活を豊かにしてくれていたのです。

どういふことかというところ、国が私達の生活をくらしやすくするために活動

するには、その分お金がかかることになり。そのために必要なお金は、主として税金によってまかなわれているのです。つまり、私達のこの豊かな生活は、税によって支えられているのです。

もし、税金がなくなったらどうなるでしょうか。火事になっても消防車が来なかったり、医療費が高くなり病気の治療が受けにくくなる。そうならば死亡率も高くなり、国の人口が減るばかりで経済面にも悪影響を及ぼしかねません。学校へも行けなくなれば、学力も正しい知識も身に付かなくなります。そうならば日本はガタガタです。

私は、税に関心を持つことによって、税の働きや税の必要性を知り、税の「力」の大きさを感ずることができました。税は、私たちが豊かな生活を営むための礎です。現在では、高齢化社会、国際社会をむかえ、社会保障の充実などの課題を私たちの国はかかえています。そして、その費用はやはり税によってまかなわれているのです。私達は税についてもっと考えなければならぬのだと思います。

私は、この作文を書いて自分も納税者の一人だということを実感するとともに、もっと税について学ぶべきだということを感じました。私達が納税者であることを忘れてはいけません。まずは一人一人が税について関心を持つことが必要ではないでしょうか。